学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立佐志小学校
授業者	砂原　聡，鶴田　愛佳

1.　単元計画

1-1.　単元名

「知ろう！学ぼう！体験しよう！～佐志っ子　私たちの海」

1-2.　学年

５年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間，国語

1-4.　単元の概要

本学年の児童は，これまでの生活科，社会科，総合的な学習の時間などの学習や，地域の中での生活体験から，海を身近に感じながらも，意外に知らないことが多いことに気付いた。そこで，インターネットを使っての調べ学習に取り組んだり，身近な人から話を聞いたりして，ある程度疑問を解決することができた。同時に，新たな興味や疑問をもち，さらに調べていきたいという意欲をもった。

５年生では，地元の漁師さんや水産振興センターの方々等の協力を得て，地引き網体験やカサゴ放流，ワカメの養殖体験などを通して，唐津の海の素晴らしさを感じることができた。一方で，海岸清掃をした際，多くの漂着ごみや不法投棄などの問題があることを知った。

社会科では，日本における漁業の様子について学び，その中で，漁獲高の減少，漁業従事者の減少と高齢化などの課題があることを学んだ。

国語科では，これまで体験・学習したことを踏まえ，「唐津市の観光に携わる方々に，唐津の海の素晴らしさをアピールする一助としてもらえるような意見文を書く」という単元を設定した。それぞれのテーマに沿って調べ，どのように唐津の海のよさを伝えればよいか，課題に対してどのような取り組みをしていけばよいか，目的意識をもちながら活動に取り組むことができた。

これらの学習活動を通して，それぞれが唐津の海の素晴らしさを守り続けたり，課題にどう向き合っていったりすればよいかを考えながらまとめ，プレゼンテーションソフトで発表をし合うことを単元のゴールとした。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

海に長年深く関わってきた佐志校区の歴史を感じながら，地域素材・人材を積極的に活用して，総合的な学習，国語科学習を関連させたカリキュラム・マネジメントと授業実践を行えば，児童が，自分自身の生活する身近な地域とのつながりを通して，社会と主体的に関わりをもち，これからの社会を創っていくのは自分達であることを実感するとともに，これまで佐志校区の海を大切にしてきた先人を敬う気持ちをもち，地域を誇りに思い，大切にしようとする意識を高めることができるであろう。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

（１）身近な海の環境や漁業の中から，調べたい事柄や課題を見つけたり，追求したい課題を設定したりする力。【知識・技能】 （２）体験活動や調べ学習を通して、身近な海の環境を生かしたり改善したりしながら漁業に関わる人々の生き方などを理解し、それを他者に伝える方法を考え、地域の発展を考えることができる力。【思考力・判断力・表現力等】 （３）身近な海の環境や漁業に関心をもち，地域に生きる一員であるという自覚をもち、自分の将来の生き方について考え、実践しようとする力。【学びに向かう力、人間性等】

2.　単元の展開（全４５時間）

時数	学習活動・主な内容	※教師の指導　/　主な評価 ☆外部連携　/　使用教材等
２	単元の学習計画を立てよう。	※これから学習する内容や体験について知らせる。身近な海について，知っていることを挙げ，知らないことがたくさんあることに気づかせる。 ※疑問や知りたいことを出し合い，単元の学習計画を考えさせる。
10	海のことを知ろう。 ・地引網体験・海岸清掃〈幸多里浜〉	☆唐房漁協青年部，県水産振興センター，市水産課（地引網） ※地引網のしくみやどんな魚が揚がったか着目しながら体験するような言葉かけを行う。 ※地引網体験後，海岸清掃を行う。どのような種類のゴミがあるか，どこから来ているかに気づかせ，今後の学習に繋げる。
	・稚魚放流（カサゴ）〈佐志浜海岸〉	☆唐房漁協青年部，県水産振興センター，市水産課（稚魚放流） ※社会科と横断的に学習をさせ，身近な所でも育てる漁業が行われていることに気づかせる。
	・ワカメ種付け体験	☆唐房漁協青年部，県水産振興センター →ワカメの種付けの前に，ワカメの収穫までの流れを，県水産振興センターの方に話をしていただく。 ※収穫の時との比較のために，サイズや色など観察しながら縄に巻き付けるように言葉かけを行う。
	・ワカメ収穫体験	☆唐房漁協青年部，県水産振興センター ※大きさの変化や感触，家で調理する中での気づきがないか，事前に知りたいことを挙げた上で体験させる。

4	体験したことを振り返ろう。	※体験終了後，感想や気づき・疑問点をたくさん挙げさせ，これからの活動への意欲を高めさせる。 ※ＧＷを行い，疑問点や課題をウェビングマップで分類させる。
3	研究したいことと学習のゴールを決めよう。 ・もっと知りたいことを調べる。 ・自分の研究課題を決める。 ・だれにどうやって伝えるか考える。	※体験のふり返りのウェビングマップから，自分が特に調べたいことを決め，これからの活動への意欲を高めさせる。 ※どのようなゴールを設定し，発表の仕方をするか決める。
8	研究を進めよう。	※これまでの学習や海の体験から，もっと知りたいと思ったことを調べる学習を仕組む。 ※唐津の海の魅力をより広げるための意見文を書き，国語科と横断的に進める。これまでの活動で感じた課題や良さをもとに，唐津の海の魅力を広げるアイディアや意見・根拠を調べ活動やＧＷの中で深め，意見文を書くよう促す。
１０	研究成果をまとめよう。	※発表に向けて，一年間の活動をもう一度振り返る。「体験したこと」「知ったこと」「疑問に思ったこと」「調べたこと」「聞いたこと」「感じたこと」など，様々な項目を挙げ，まとめの発表のイメージをもたせる。 ※写真やグラフなど，必要な情報を集めさせ，より伝わるプレゼンテーションになるよう指導する。 ※パワーポイント（発表資料）とワード（発表原稿）を活用し，グループで役割分担しながら，準備を進めさせる。 ※今までお世話になった漁協や水産振興センターの方に感謝の手紙を書く。
2	研究の成果を発表しよう。	※各学級で発表会を行う。 ・感染症対策のため，発表の動画を撮りながら，各学級で行った。
5	学習のふりかえりをしよう。	※すべてのグループの発表後，良かった点を挙げさせ，よりよくすべき点の訂正を行う。 ※課題やこれから自分たちにできることをまとめとして提案できるよう再度指導し，まとめさせる。 ※これまでの学習の成果物を見せたり，関わってくださった方々への手紙を紹介したりして，学んだことや学び方を振り返り，学びの価値付けを行う。

3.　学習活動の実際

3-1.　単元における位置づけ

単元　４５　時間中の　２９，３０　時間目

3-2.　本時の目標

体験活動を通して学んだり調べたりしたことの中から，自分自身の海への関わり方や伝えたいことを明確にしたまとめ方や発表の仕方を工夫して，発表することができる。

3-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	形態	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１．これまでの体験活動や調べ学習で分かったことや自分なりに考えたことを振り返る。	ＣＷ	○体験学習で行ったことを振り返り，その時に感じたことを想起させる。 ○調べ学習で分かったこと，疑問に思ったこと，新たに出てきた課題などを想起させる。
２．本時のめあてを立てる。		○国語科での学習や SDGｓについての学習とも関連付けながら，唐津の海について学んだことをもとに，様々な課題とどう向き合っていくか，同じ時代に生きる人々とどう協力し合っていくかを伝えたいという意欲をもたせる。
めあて 体験活動や調べ学習を通して分かったこと，感じたこと，考えたことをまとめ，発表資料を作ろう。		
３．これまでの体験活動や調べ学習で学んだことをまとめる。 」	ＰＷ	○これまでの体験活動や調べ学習について，特に印象に残ったことや伝えたいことをワークシートにまとめさせる。 ○自分がどのように関わっていくかということについても考えさせる。
４．グループごとに，どのように伝えるかを考える。	ＧＷ	○プレゼンテーションソフトを使ってまとめ，発表するためには，どのような構成や内容にすればよいか考えさせる。 ・スライドの枚数を限定する。 ・発表を聞く側の立場に立って考えさせ，表示する文字情報はできる限り少なくし，発表での説明で補う。 ・写真などの資料をプレゼンテーションの中で利用し，見る人が分かりやすいようにする。

		【思考力・判断力・表現力】 Ｂ　どのように表現すれば相手に自分の考えや思いが分かりやすく伝わるかを考え，発表資料を作成している。 ●　資料に載せる文字情報は少なくしたり，写真等の資料を使ったりすると分かりやすくなることをアドバイスする。
５　本時の学習を振り返る。	ＰＷ	○振り返りのポイントを提示し，本時の振り返りを書かせる。 〈振り返りのポイント〉 ・今日の学習で考えることができたこと。 ・友達のよかったところ。 ・次の時間に生かしたいこと。
６　次時への見通しをもつ。	ＣＷ	○振り返りを発表させ，本時の学習での自己の伸びや，友達と話し合うことの価値付けを行う。

4.　今回の活動の自己評価

児童は体験学習や調べ学習などを通して様々な知識を得，様々な課題にも気付くことができた。大切なのは，これから自分自身の中でそれらを整理し直し，これからどう関わっていくか，社会に発信していくかということである。今回お世話になった漁師さんや各関係者の方々は，なぜ，自分達のために，一生懸命に教えてくださったのかということも含め，主体的に自分達のふるさとである唐津の海の魅力を広げていくことの意味を学ばせることができた。子供達は SDGｓについても学んでおり，世界の人々と協力して，持続可能な社会の実現に向けて、様々な課題に向き合っていかなければならないことを理解できたと考える。

5.　今後の課題

・今年度も昨年度に引き続き，新型コロナウイルス感染症への感染対策をとりながらの活動になった。来校していただいて話を伺う機会がなくなるなど，十分な活動ができなかった面もあった。調べ学習に適したサイトの情報をあらかじめ集めておき，効率的に調べられるようにしておくとよい。
・波戸岬研修は，雨のため，予定していた海での活動（カッター体験）ができなかった。雨天時にも海に関する学習が室内でできるのであれば，検討しておく必要がある。
・SDGｓとも関連させて，さらにカリキュラム・マネジメントを充実させていく必要がある。

6.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・特になし